伏見臺中央試驗所（午前 9-40 分より 10-30 分）本所は滿洲天與の富源開發を學究的に研究する事を目的されたもので滿鐵内中央化學實驗室である。大豆油、澱粉、硬化油、酒精類の如き有機化學研究、燃料に關係して石炭液化、各種燃料の研究、無機化學研究としてはアルミニウム、マグネシウム精錬研究等廣汎なる範圍に渉つて居る。就中頁岩油の研究、輕金屬精錬の工業的研究、石炭液化工場、水素製造工場等は會員の注意を惹けるものである。

三泰油房工場（午前 10-40 より 11-20 分）寺兒溝に設けられた著明なる油房工場で滿洲農產物の大宗たる大豆を加工して油を搾り豆粕を作り肥料及び家畜飼料を製造して居る。現在工場の大半は作業休止の狀態で臺灣向け豆粕を手締め機械で製造して居た。苦力等の全裸體にて高溫度蒸熱室に於て作業しつゝある狀態は見學者に奇怪の感を與へた。

晝食　一同自動車を連ね甘井子に出で海員倶樂部に休憩し晝食する事となつた。本所は大連灣を眼前に眺め海を距てゝ大連市を指摘され風光絶佳なる景勝で海員のために作られた慰安娯樂の設備遺憾なくされ參加者一同見學の勞を醫する事を得た。

甘井子石炭積込場（午後 1-20 より 2-30 分）

本所は昭和4年に竣工された滿鐵の自慢とする世界有數の大規模な石炭積込場である。一萬噸級貨物船4隻を繫留し得る大高架棧橋カーダンパー、石炭車の自動運轉、操車裝置、全作業の司令塔集中等は最も注目され、埠頭長の明快なる說明に一同滿足した。

滿洲化學會社（午後 2-30 分より 4-00）

本所は現在建設工事中に屬し 11 月末には作業を開始する豫定にて工事を急いで居る。年產硫安 18 萬瓲ウーデ式最新工場の大異觀は已に八分通完成されて居る。深山工場長より全般の說明を聞き本所獨特の亞硫酸アムモニア法、水素製造法等の進步せるに注目した工場建物内に立入る事は會社の方針として遠慮せしも骸炭工場、瓦斯發生爐、硫酸工場、硫安工場等の見學は會員を裨益する所尠くない。

午後4時 20 分大廣場ヤマトホテルに歸着散會し今日の第一班日程を豫定通り終了した。

大連工場見學第二班　委員目下委員、遠藤一夫氏、名黑和孝氏。參加者、河村前會長を團長とし以下 35 名。午前8時 30 分ヤマトホテル前に集合し 11 臺の自動車に分乘し第一班に後る事5分にして出發し滿蒙資源館及び伏見臺中央試驗所を第一班同樣見學した。伏見臺を終り中央試驗所沙河口研究所に行く。

沙河口研究所（午前 11-00 より 12 時）

渡邊所長代理より業務概要の說明を聞き研究室を巡覽した。X線金相室、輕合金室，顯微鏡金相室、化學冶金室、低溫試驗室、石材試驗室、電氣爐室、材料試驗室、高壓電氣試驗室等は其主なるものである。當所に於て試作せる白金代用合金の耐酸實驗及び零下 40 °C の寒冷室裝置等は一般の興味を惹いた。

晝食　沙河口研究所應接室に於て談笑の間に愉快に過す。

沙河口鐵道工場（午後 1-00 より 3-00 時）

杉浦工場長及び菅原工作所長の出迎を受け二班に別れて製罐、組立、旋盤、鑄物、鍛冶等の各職場を見學した。新裝される超特急のアジアの機關車に就き工場長の說明あり又善美を凝せる新客車に試乘し試運轉を行ひ一般の興味を添へた。又鑄物職場に於ける遠心鑄造は一部會員の參考となれる如し。

昌光硝子工場（午後 3-10 より 4-10 分）

工場長及び技師長の二班に分れて工場全般の見學を行ふ事となつた。フルコール式に仍る板硝子の製造工程と滿人職工の活動とに一同興味を深くした。見學後應接室に於て茶果の饗應を受け滿洲に於ける板硝子需給關係に關し工場長の面白き談話を聞く。

午後 4 時 30 分ヤマトホテルに歸着し散會した。

本日兩班共滿鐵關係の滿蒙資源館、伏見臺及び沙河口中央試驗所に於ては概要の說明印刷物を受取つた。

第4日（10 月 10 日　水曜、快晴）

大連發午前9時特急列車ハトにて鞍山に向ふ事となつた。南滿山野の風物を賞しながら一路鞍山に向ふ。午後1時湯崗子に着き各自荷物を却し同1時 36 分鞍山驛に下車した。伍堂社長以下幹部諸氏並に世話係員の出迎を受けた。

大孤山採鑛所見學

驛のプラツトホーム前には豫ねて製鋼所で用意された電車が待つて居る。一行は之に便乘して大孤山見學に赴いた。此の線路は製鋼所選鑛工場と鑛山とを連絡する約 13 km 程の運鑛線で走る事12分山の麓に到着する、大孤山は製鋼所の有する十有餘の鑛區中現在その採掘に主力を注いでゐる山である。山の中腹で採鑛部長取締役久留島秀三郎氏の極めて明快な說明によつて鑛石採取の作業狀態や沿革を聞く。山の高さ標高海拔 287 m 其鑛量は 1 億瓲，鑛石の厚さ 200 m 長さ 1 km 位と云はれてゐる。採鑛法は露天掘で鑛石の發破には山麓の工場で製造する特有の液體酸素爆藥を使してゐるが、此の方法は先づ適當な場所に水平抵抗或は堅抗を掘り抗道の奥に藥室を設けその中に製鋼所副產物たるアンスラシンを燻燒して得た煤煙を紙製被包に塡充し液體酸素を注入後電氣點火によつて一擧數千瓲乃至數萬瓲の鑛石を崩壞する事　なつてゐる。則ち其の場合の反應は $C+O_2=CO_2$ となつて强烈なる爆發力を生しるのである。稍大塊の鑛石と割るにも鑛石の表面は煤煙被包を置いて小量の泥土で覆い普通の導火線を以て點火すると極めて簡單に割る事が出來る。而かもこの液酸爆破は火藥のそれと異つて安價であり引いて採鑛費の低下を見る事が出來る使用上の危險率も比較的尠いと云はれてゐる斯くて說明後大爆破の實地を目前に眺めて其の壯觀に驚ろかされたのであつた。尙山上よりの眺望たる南滿の奇峰千山を指呼して絶景洵に賞す可きものあり。然もこの山中今日尙匪賊の跋扈甚しく探勝の機を得さるは惜しむべき事なり。山麓に支那古寺双峯寺あり、最近にも匪賊の襲擊ありと聞く。爲めに大孤山の警備亦嚴重にして警備員の武裝の如きも不慣の一行には異樣の物々敷感を抱かしめたのであつた。斯して鞍山に歸るや。後6時半製鋼所の盛大なる歡迎晩餐會の招待を受く、主人側製鋼所幹部並に實行委員一同開會と共に社長伍堂氏の懇切なる歡迎の辭あり之に答へて野田會長一同を代表して謝辭を述べ歡を盡して後 10 時3分發にて宿所に充てられた湯崗子溫泉對翠閣に着く。一風呂浴びたる心地また格別なり。

第5日（10 月 11 日木曜日　快晴）

製鋼所參觀

午前 8 時 50 分湯崗子驛出發 9 時 20 分鞍山驛着直ちに製鋼所バスを以て9時 30 分事務所に到着、直ちに大玄關前にて同所幹部一同を混えて記念撮影をなし應接室に入るパンフレツトの配付を受け見本と圖解に依つて梅根銑鐵部長等の詳細なる說明を聞く、終つて工場内に入り詳細見學す、廣大なる用地内には既に完成に近き製鋼工場並に分塊工場を初め目下增築を急ぎつゝある骸炭工場、銑鐵工場，副產物工場あり附屬發電所機關工場をも遂一見學後社員食堂にて晝食の饗を受け休憩後、午後の見學に移り製鋼所獨有の選鑛工場の見學をなす、即ち昨日見學せる大孤山の鑛石は搬はれて此の工

場に到り還元焙燒爐に燒かれて焙燒磁化され順次粉碎の上磁力選鑛を行はれ貧鑛は富鑛に變し、更に燒結されて塊鑛となり鎔鑛爐裝入原料となるものである。此の日の工場內見學に何れも懇切なる案內と詳細なる說明を受け一同多大の滿足と感激に滿ちて午後3時30分見學を終了し4時18分一行は再び湯崗子の旅舍に歸り久方振りに寬いだのであつた。

第6日（10月12日　金曜日　快晴）

弓張嶺見學

午前8時50分湯崗子驛發。途中鞍山にて製鋼所幹部並に有志の厚意ある同道を得て一行は弓張嶺鐵山見學に向ふ。

遼湯着午前10時。此處にて滿鐵本線と離れて弓張嶺運鑛線に入る事になつた、これも豫ねて製鋼所の取斗ひで滿鐵二等車を其ままに運鑛線に進ませる事が出來たので一行は何等面倒はなかつた。この運鑛線は延長遼陽から37·5*km*もあつて10月1日開通の極めて新品のものだつた。線路の兩側は殆んど棉畑チラチラと滿人の女が頭巾を被つて棉花を採入れてゐる樣子は宛然內地の姉さん被りの茶摘女を想はした。汽車は太子河に沿ふて上り、山間の景色は內地の紅葉に似て洵に美觀であつた。弓張嶺には11時40分頃に到着した、先づ第一に驚いたのは守衞が全部武裝いかめしい軍隊と同樣な服裝をして作業にも動作にも全然軍隊と異ならない事であつた。下車すると準備の椅子に腰を下した。採鑛部長久留島氏は叮寧に山の沿革並に作業に就ての說明された、說明を聞くにつれて開拓者の苦心の程が察せられる。兇暴なる匪賊の爲めに守衞の武裝も斯くやとうなづかれるのであつた。說明が終つて特に晝食に成吉思汗鍋の饗を受く鞍山から態々十數名の社員が今日の一行の爲めに重い大きな鍋と道具を擔ぴ野天に座を設けて待遇してくれたのであつた。夫々思ひのままに思ふ存分肉を燒いてパク付く。成吉思汗鍋は野趣味豐富山間での御馳走には極めて御誂向な珍味なものであつた。

終つて山に登り採鑛作業の見學をすまし深く感謝しつゝ午後2時再び運鑛線を走つて遼陽に出で午後4時24分、多數製鋼所幹部及社員に見送られて奉天に向つた。

奉天驛には當地實行委員等が出迎へてくれ用意のバスに便乘して一行の大部分は豫定の宿所瀋陽館に到着したのであつた、時に6時20分。

第7日（10月13日土曜日　曇後雨）

奉天見學

午前9時、瀋陽館玄關前に集合、委員より簡單に本日のプログラムに付き說明あり、直ちにバス3臺に分乘して奉天委員を先頭に出發

天候險惡のため風稍身に泌むれども一行の元氣益々溢るゝばかりなり。

先づ忠靈塔に參拜して勇士の靈を犒らひ新市街を通り支那町を拔け一路北陵見學に向ふ。

陵の境域に入るや道路を挾む兩側の樹木、紅葉して誠に風情あり陵は壯麗を極め當時の淸朝隆盛を語るに充分である、再びバスを走らせて北大營の戰跡を巡りバスの儘荒寥寂漠たる北軍敗戰の營舍を一周す。バスは走つてやがて奉天城內に入る。斯くして城內支那第一のデパート吉順號に立寄り各自土產を求めて引揚げたり。此頃より降雨次第に烈し。

奉天兵工廠見學

續いて一行は再びバスを走らせて奉天兵工廠に到る、時に正午當工廠にては特に晝食の餐應あり。暫時休憩の後同廠村瀨社長より歡迎の挨拶及び工場の沿革、作業狀態に付き說明あり、其の後場內小銃彈工場、機關銃工場、大砲工場等を順次詳細見學の上、深く厚意を謝してバスに分乘し宿舍瀋陽館に歸る、時午後4時。

夕食を濟まして7時10分、一行は態々當地まで出迎へられたる撫順委員の案內にて撫順に向ふ、到着8時30分、各自割當の旅館に入り今日の旅程を終る。

第8日（10月14日　日曜日　快晴）

撫順見學

午前9　一同炭礦事務所に集合パンフレットの配付を受け屋上展望臺に登り係員の說明にて當所の地形市街情勢並に礦區工場分布の說明を聞く、一望よく指呼の間に點じ甚だ明瞭なり。

次に應接室に入り炭礦長久保孚氏よりの挨拶並に詳細に亙る說明あり終つてバス4臺に分乘して東洋第一の古城子露天掘を一巡見學し化學工場に入り順次懇篤なる工場長の說明を得滿足して晝食を炭礦ホテルに採る、食後野田會長より謝辭を述べ、續いて明日以後の旅程に於ける甲乙2班分離の挨拶と乙班の團長に前會長河村博士を推す旨を發表された。休憩後再びバスにより發電所を見學す。

斯くて見學終るや一同深謝の上數名はバスを利用し、大部分は再び撫順驛より多數炭礦幹部の見送りを受け午ら4時20分奉天に向ふ

尙大會以來引續き一行に隨行種々奔走の勞を採られたる鞍山實行委員水津氏は都合上今日限りにて歸鞍さるゝ事となり一同同氏の爲に感謝する處あり。

一行瀋陽館にて夕食を濟して乙班28名は、河村團長を先頭に午後9時20分奉天發國都新京見學に向ふ。

甲班20名は再び瀋陽館に投宿し明日本溪湖に向ふ豫定なり。

乙班　第9日（10月15日　月曜日　晴天）

新京見學

一行28名、午前6時新興新京驛着、同地實行委員の出迎を受け直ちに旅館名古屋ホテルに到る、用意の朝食を濟し委員の斡旋にて偶然にも再び得難き滿洲國觀兵式拜觀の榮を得、一行此の好機に喜び參列す、親しく皇帝陛下の勇姿を仰ぎ奉り歡喜す、滿洲國軍隊の威風亦堂々として新興國の威氣を示すに充分なり、斯くて拜觀を終りバスを連ねて市街を一巡の後城內を走り南嶺の戰跡を見學し、勇士の墓前に參拜す、歸途實業廳の屋上に案內され、國都建設の說明を受け甚だ得る處多し、辭して自治會館にて晝食を採る、以上にて新興新京の一般見學を終り、宿に歸りて自由行動となる。

夕方6時、一同支那料亭公記飯店に於ける滿洲鑛業協會の晩餐會に臨む、主人側赤瀨川氏の歡迎の辭に對し河村團長謝辭を述べ、一同歡談盛會裡に會を終る。

乙班　第10日（10月16日　火曜日　晴天）

ハルピン見學

吉林行の齋藤博士を除く一行は益々元氣に午前8時30分新京驛をハルピンに向つて出發、北滿の廣漠たる平原愈々開けて車窓の眺め實に雄大無邊なり車中談笑を交え或は名古屋ホテルより各自持參の辨當に舌鼓を打ちつゝ北へ北へと進み、午後2時10分ハルピン驛到着、荷物を出迎のポーターに託して一行は直ちに驛より2臺のバスに分乘し案內者によつて見學のコースに入る。

瞳に影ずる總べての風物昨日と全く變り異國情緖を多分に含んでゐる。先ず新市街を通り郊外に出で志士の碑に參拜案內者の說明に一同當時を偲ぶ。再びバスを市中に向けて飛行場、日本領事館前を走り、新市街、舊哈爾賓市を見學し、埠頭區に出で北行して松花江沿岸に到る、一行を壓する如き江の風光を眺めキタイスカヤ街を拔けて旅館、北滿ホテルに落ち付きたり。時に5時を過ぐる事10分夕食を濟して各自自由行動に移る。

ハルピンは協會として視察す可き專門的個所なきも、行客の多くが視察の序を以て露西亞情緖を味はゝんとする處、且つは亦邦人にとつて總べて事情を異にする土地柄なれば風俗視察上是非一度見學すべき都市ならん。

現今は爲替の關係にて日本金にては物價頗る高し。

乙班　第11日　(10月17日　火曜日　晴天)

ハルピン新京—奉天

目に觸るゝもの萬事珍らしきハルピン見學は時間に稍ゝ不足の恨ありしが豫定の通り午前9時、北滿ホテルよりバスに乘じて驛に到り9時36分發奉天に向ふ、一行を驚ろかした夜來の吹雪も午前10時には全く晴れ渡つて一點の雲もなし。車中は和氣靄々として各自交々前夜の見學の思出を語られ笑ひ賑ふ者あり、或は疲勞の回復に深き眠りをとる者等思ひ思ひであつた。

途中新京にて乘替へ、赤い夕陽を窓外に眺めて午後10時30分奉天着、直ちに一部の散宿者を除いて一行は旅館瀋陽館に宿泊す。

乙班　第12日　(10月18日　水曜日　快晴)

本溪湖煤鐵公司見學

一行23名は見送の奉天有志諸氏に厚く謝辭を述べ、早朝奉天まで出迎の本溪湖委員井門氏に導かれて午前8時奉天を後に本溪湖に向ふ。9時8分到着、プラツトホームには煤鐵公司總辦鮫島宗平氏を初め公司幹部多數の出迎あり、直ちに倶樂部に案内せられ玄關前にて記念の撮影をなし用意されたる紅茶を啜りながら眼下に工場を見下して梶山課長の詳細なる說明を聞く、終つて一先ず倶樂部に入り各自パンフレツトの配布を受け鮫島總辦より特に懇篤なる歡迎の辭と工場の沿革、作業の狀態等の說明を受く、且つは亦贈物の惠與にまで預りたり。終つて晝食の饗應に接し河村團長之に答へて深く謝辭を述ぶ。

食後休憩する事暫時、公司幹部多數の案内にて工場を詳細見學す特に低燐炭、低燐銑に關する說明と見學は一行の爲めに得る處洵に多かりき。4時工場見學を終了し各自割當の宿舍に入り風呂を浴びてくつろう、6時再び倶樂部の大廣間にて同公司よりの特別なる夕食の饗應を受く、鮫島總辦の御挨拶に對して齋藤博士一行を代表して謝辭あり全員夜更に至るまで歡を盡し、感謝して辭去す。

乙班　第13日　(10月19日　木曜日　快晴)

廟兒溝鐵山見學

亦しても朝食の饗に預り一行20名は鮫島總辦並に幹部多數の厚意ある御同道にて本溪湖發9時58分、廟兒溝鐵山見學に向ふ。

南坟に下車して武裝警備員に護られ運鑛線に乘れば程あつて選鑛場あり、特に嚮重なる案内にて工場内の見學を終り、小憩の後同地倶樂部に於て再度晝食の饗を受け一同美味に滿腹となる。

斯くて午後1時再び一行を乘せた運鑛線は愈々鐵山廟兒溝に向つて走る、兩側の絕壁紅葉に彩られて風景洵に賞す可し。やがて山麓の鑛石積込場に到着すれば豫ねて一行の爲めに新調された特製自轉エンドレス捲揚機に乘替えられて坑道入口事務所に到る、詳細の說明を受けたる後、一行は各々用意の坑内服に身を固め手に手にガスランプを提げ急製鑛夫宜しく坑内深く見學した。事務所に戻れば玆に亦茶菓の接待あり、休憩する事暫時下山して一路南坟に到着す。

然るに驛前には重ねて嚮重なる席の設けありて風趣多分の特產珍味の接待あり、一同厚意を感謝、盃を揚げて健康を祝し多數本溪湖煤鐵公司幹部諸氏の見送を受けて5時30分南坟發、兼二浦見學の途に着く。

乙班　第14日　(10月20日　土曜日　快晴)

兼二浦製鐵所見學

一行19名、早朝4時25分黃海黃洲着、驛には既に兼二浦日鐵工場より實行委員及び世話係の出迎あり、當驛より兼二浦行一番列車にはまだ3時間餘の間がある。されば委員の案内によつて一同驛前旅館に入り前夜來の眠り不足を補ふ爲めに床に入りて一睡す。斯くて7時45分ようやく黃洲驛を出發す。

河村博士は兼二浦行を中止されたので今日は一行の團長を齋藤博士に御願したのであつた。

兼二浦驛には多數日鐵兼二浦工場幹部諸氏の出迎があつて、直ちに同所倶樂部に案内され朝食の饗を受け、小憩の後、工場の沿革、作業狀態の說明あり導かれて工場内の見學に移る、得る處甚だ多し。見學を終るや再び倶樂部に歸り特に同工場にて設けられたる晝食の饗を受け、所長萩野友助氏より歡迎の辭あり、之に對へて團長齋藤博士謝辭を述ぶ、尙齋藤博士は同席にて今日此の兼二浦工場見學を以て視察旅行の終了を告げ解散する旨を宣した、且つ鞍山以來一行の隨員として行を共にしたる石井實行委員に對し一同を代表して深へ感謝の辭を述ぶ。

一同盃を揚げ健康と鐵鋼協會の前途を祝福して目出度散會す、時に午後1時。

斯くて見學旅行中一人の病人も無く一同元氣にて好天に惠まれ和氣靄々の内に終始し特に各見學工場並に視察個所に於ては、何れも懇切なる案内と詳細なる說明を加へられ且つ豫期せざる歡迎の饗應を受け參加會員一同は多大の滿足と感謝に滿ちて旅行を終了した。

甲班　第9日　(10月15日　月曜日　晴)

本溪湖煤鐵公司見學

甲班一行20名は奉天有志諸氏の見送りに厚く謝辭を述べ早朝わざわざ奉天迄出迎の本溪湖實行委員井門文三氏に導かれて午前8時奉天を發し本溪湖に向ふ車中の無聊を慰むべく本溪湖委員に依つて窓外に展開される實狀を眺めつつ曾て起りし本溪湖襲擊事件の經過を要領よく說明された、かくする間に列車は9時50分本溪湖に到着す。

驛には煤鐵公司總辦鮫島宗平氏を初め公司幹部實行委員諸氏の多數出迎あり直ちに鶴友倶樂部に案内せられ玄關前にて眼下に工場及市街を見下し乍ら梶山工務課長の詳細なる說明を聞く全く當公司は地理的には原料其他に就て天惠的地位にあるを知る終つて倶樂部に入り各自にパンフレツト其他參考資料の配布を受け且御土產品として龍泉石より造れる硝子の贈物を受け鮫島總辦より懇篤なる歡迎の辭と適切なる作業狀況に就ての說明を受く特に低燐銑製造作業に就て野田會長の効績を推奬さる終りて野田會長の謝辭と當公司從事員の努力を稱讃され次で晝食の饗應に接す食後休憩する事暫時にして玄關前にて記念撮影を終り公司幹部多數の案内にて鑛夫宿舍に於ける滿人鑛夫の生活狀態を始めとして各工場を詳細に見學し倶樂部に返りて一同くつろぐ。

6時倶樂部大廣間にて同公司の晩餐に招かれ全員歡を盡し感激に滿ちて辭す。

甲班　第10日　(10月16日　火曜日　晴)

廟兒溝鐵山見學

鮫島總辦並に幹部多數の御同道にて9時58分本溪湖を發し南坟に下車し警備員に護られ運鑛線にて選鑛場に向ふ場内一巡の上同所倶樂にて晝食の饗應にあずかる。

斯くして午後1時出發運鑛線に依つて廟兒溝鑛山山麓に着す匪賊の襲來に對し附近の材木を刈られ宿舍の周圍に鐵條網を巡らせるは異樣の觀に打たれると同時に第一線で奮鬪されつつある諸氏に感激の念をささぐ。

用意されたるエンドレス捲揚の臺車に乘り現場事務所に達す捲揚の動力は鑛石の重量によつて空車を引揚るもので吾々も鑛石の目方で山上に達した譯だ事務所にて說明あり後一行は坑内服に身を固め坑内燈を手にして實地見學をなす暫時休憩の上、下山し南坟に引返す本線列車待合中驛前にて嚮重なる接待に接す特に特產珍物のみにして心も身も一杯になる5時30分公司諸氏と健康を祝しつつ兼二浦見學の途に着く。

甲班　第11日　(10月17日　水曜日　晴)

兼二浦日製鐵所見學　一行18名午前4時25分黃海黃州驛に到着す驛に兼二浦日鐵工場より實行委員世話係の出迎あり驛前伊丹旅館に入り用意されたる床に入りて一睡す。

斯くて午前7時45分當驛を發し兼二浦に向ふ氣溫急に降下し薄氷を見る列車の窓は雪模樣で色どられてゐた。兼二浦驛に着するや出迎の自動車に分乘し迎賓館倶樂部に至り用意されたる朝食の饗應にあずかり小憩の後、萩野友助所長より歡迎の辭及工場の沿革其他作業に就ての說明あり終つて實行委員に導かれて工場内を詳細見學す。

再び倶樂部に引返し晝食の接待に接す此の際野田會長より甲班見學の無事終了を宣し解散の旨發表された次で鞍山出發以來一行の隨員として行を共にせる金丸實行委員に對し感謝の辭を述ぶ。

金丸委員は道中の不行届きを謝し解散後御一行の一路平安と健康を念願しつつ歸途につく時に午後1時、斯くして意義ある沿線見學を終了し自由行動に移る。